

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **建設局**

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	彩りのあるまちづくり

担当局 / 総務担当課名	建設局	総務課
連絡先	582 - 2252	

21年度計画

-1-(1)-

施策名 **まち美化活動の拡充**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民や企業、学校など、全市民的なまち美化への機運を高め、地域や職場、学校などのさまざまな単位で、道路や公園、河川などにおけるまち美化活動を広げていきます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	彩りのあるまちづくり

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成21年度	計画	実績		年度	平成25年度
施策の成果	道路サポーター加入団体数		115 団体	計画	115 団体	年度	平成25年度
	美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することであるため、前年度からの増加加入団体数で判断します。	現状値	115 団体	実績	135 団体	目標値	220 団体
				達成度	117.4 %		
	公園愛護会結成状況	年度	平成21年度	計画	— 団体	年度	平成25年度
	新規結成20団体の増加を目指すとしているが、高齢化、少子化、さらには経済不況などの影響に伴い、ボランティア活動を行う団体の解散もある。全体の結成数を現状維持とし、平成25年までに結成数20団体増を目指します。	現状値	1140 団体	実績	1,140 団体	目標値	1160 団体
				達成度	— %		
河川愛護団体数	年度	平成21年度	計画	65 団体	年度	平成25年度	
	河川における美化活動を広げるためには、身近な団体をつくり、地域での意識を高めて、情報発信を行う必要があります。毎年5団体増加、平成25年度に85団体とすることを目標とします。	現状値	65 団体	実績	68 団体	目標値	85 団体
				達成度	105.0 %		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費		63,379 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
		うち一般財源		63,379 千円	39,827 千円		

## 局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	<b>B</b>	少子高齢化の影響を受け、活動を維持することが困難な団体も見受けられますが、道路サポーター、公園愛護会、河川愛護団体共に団体数は増加傾向にあり、着実にまち美化活動が広がっています。一方で、構成員高齢化している団体が増えているという課題も抱えています。
今後の局施策の方向性	今後も、市民や企業によるまち美化活動への参加の機運を高め、積極的に活動を行えるような支援を継続して行います。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

## 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 まち美化活動の拡充

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
ボランティアネットワークの推進(道路サポーター)			16,360 千円	9,227 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			16,360 千円						
ボランティアネットワークの推進(公園愛護会)			44,599 千円	15,600 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			44,599 千円						
ボランティアネットワークの推進(河川愛護団体)			2,420 千円	15,000 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			2,420 千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	63,379 千円	39,827 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	63,379 千円		

局施策の  
21年度評価

**B**

【局施策評価】  
A:大変良い状況にある  
B:概ね良い状況にある  
C:概ね良い状況とまでは言えない  
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	建設局	道路計画課
連絡先	582-3888	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	彩りのあるまちづくり
	主要施策	まち美化活動の拡充

関連計画	
事業期間	平成17年9月～
経費区分	裁量的経費

-1-(1)-

事業名	ボランティアネットワークの推進(道路サポーター)	
-----	--------------------------	--

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	道路、公園、河川のボランティア活動を行うこと、団体相互の情報交換や活動の共有化(ネットワーク)を行うことで、事業のさらなる発展と本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図ります。そのために、本市では、道路清掃などのボランティア活動を行っていただけの団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援します。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	成果
		まち美化活動の拡充	道路サポーター加入団体数

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	加入団体数 115団体	加入団体数 160団体	加入団体数 185団体	加入団体数 205団体	加入団体数 220団体			
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		加入団体数の増加					計画	8 団体	年度	-
		美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することが望ましいため、前年度からの増加加入団体数としました。					実績	28 団体	内容	
							達成度	350.0 %	内容	
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]						事業費	16,360 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
								うち一般財源	16,360 千円	9,227 千円
	単年度計画	(各区役所の職員を含む)								

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	設立当初は、平成17年から22年の5年間で100団体が目標でしたが、すでに4年半で135団体まで拡大しました。これは、活動者の皆様の口コミで広がったものと考えられます。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	「ごみはごみを呼び込む」「ごみを捨てる人はごみを捨てない」ことから、本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進に寄与しているだけでなく、道路サポーターを通じて地域活動の活性化、高齢者の生きがいの創造につながっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	広報にコストをかけずに、多くの方に本制度を知っていただくため、各種イベントへの参加や総会の一般参加受け入れ等を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	この制度が、市民が率先してゴミを捨てる心の育成に寄与していることから、継続することが重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	現在急速に団体数が増加しており、継続的な活動を支えるためにも市からのサポートが必要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進、地域活動の活性化、高齢者の生きがいの創造のため、現状のまま継続することが適当であると思われます。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	建設局
連絡先	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	彩りのあるまちづくり
	主要施策	まち美化活動の拡充

関連計画	
事業期間	S45～
経費区分	裁量的経費

-1-(1)-

<b>事業名</b>	<b>ボランティアネットワークの推進(公園愛護会)</b>
------------	-------------------------------

【目的】 事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	街区公園の維持管理業務のうち、清掃や除草などについて、地元等で結成されている公園愛護会と協働による事業の実施を図るため、公園愛護会へ助成金を交付しています。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	まち美化活動の拡充		成果	公園愛護会結成状況

【手続】 目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		公園愛護会に対する助成金の交付 交付対象:公園が設置されている地域の10人以上の住民により構成された団体 *公園愛護会の結成数が増加すること等による予算の見直しを行う								
	現状	1139団体 1140団体 新規28団体 解散27団体	1140団体 1144団体 新規25団体 解散21団体 (7月末現在)	1150団体		1155団体		1160団体		
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		公園愛護会結成状況						計画	年度	
		高齢化、少子化、さらには経済不況などの影響に伴い、ボランティア活動を行う団体の解散もあることから、全体の結成数を現状維持とし、平成25年時点で、1,160団体を目指します。						実績	1,140 団体	
								達成度	%	
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	44,599 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
								うち一般財源	44,599 千円	15,600 千円
	単年度計画	当該事務事業については各区まちづくり整備課が補助金交付事務や愛護会の相談事務を行なっている。								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	市はボランティア団体である公園愛護会に対し、公園で美化活動や維持管理の支援を行なう目的で各団体に毎年、助成金を交付しています。その交付金を元に公園愛護会は公園内の美化活動や花壇づくりなどの地域コミュニティに役立てていただいています。この結果、公園内の維持管理が適切に行なわれており、公園の維持管理コストの一部削減が実現できています。しかし、あくまでもボランティア活動に対する助成金であり、労働の対価ではないため強制力はありません。現状の公園愛護会の結成数を維持しながら、未だ結成をしていない公園に公園愛護会を結成していただくよう、建設局で同様な支援を行っている課と協力しながら結成の呼びかけを行なっています。その結果、平成21年度は前年に比べて1団体増で、1,140団体が結成されています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業を行なうことで、ボランティア団体である公園愛護会は、地域にある公園の維持管理を行い、行政との協働を図り、環境美化に貢献をしています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果より低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	本事業はボランティア団体である公園愛護会と協働を図ることで、公園の維持管理コストの一部削減を実現しています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本事業を止めた場合、公園の維持管理コストが増大し、また、適切な維持管理ができなくなる恐れがあります。ボランティア団体である公園愛護会との長年の協働が、現状の公園の維持管理につながっていると考えます。今後も継続的な実施が必要だと思われます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	ボランティア団体である公園愛護会による活動であるため、補助金交付や公園整備等市の関与をなくすことはできません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	公園が設置されている以上、公園の維持管理は完了しない。既に公園愛護会は70%程度の結成率を達成しており、新規結成に努力しているが一方で高齢化などによる解散が増えている。現状を維持しながら、継続していくことが重要である。

# 事業評価票

<b>平成21年度実施事業</b>	新規	継続
-------------------	----	----

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月
--------	--------	------------

担当局/課	建設局	計画課
連絡先	582-2480	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	彩りのあるまちづくり
	主要施策	まち美化活動の拡充

関連計画	
事業期間	H19~
経費区分	裁量的経費

-1-(1)-

<b>事業名</b>	<b>ボランティアネットワークの推進(河川愛護団体)</b>
------------	--------------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、地域の河川を身近に感じてもらい、美化活動を広げていきます。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	まち美化活動の拡充		成果	河川愛護団体数

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由				
		河川愛護団体に対する補助金の交付										
		補助金交付団体数	65団体	補助金交付団体数	70団体	補助金交付団体数	75団体		補助金交付団体数	80団体	補助金交付団体数	85団体
		河川愛護団体に対する補助金の交付										
	現状	河川愛護団体に対する補助金の交付										
	補助金交付団体数	68団体	補助金交付団体数	70団体	補助金交付団体数	75団体	補助金交付団体数	80団体	補助金交付団体数	85団体		
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)							平成21年度	目標		
		河川愛護団体総数						計画	68 団体	年度	平成25年度	
		河川における美化活動を広げるためには、地域での意識を高めるために、身近な団体を作り、情報発信を行う必要があるため、河川愛護団体総数を指標にしました。						実績	68 団体	内容	85団体	
								達成度	100.0 %	年度		
コスト							事業費	2,420 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)			
							うち一般財源	2,420 千円	15,000 千円			
単年度計画									計画課・・・統括 まちづくり整備課・・・ 河川愛護団体の受付 補助金の交付			

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

<b>実施結果</b>	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は、地域総括補助金へ移行し、地域のまちづくり協議会の1部門として活動を行っている団体が増えてきました。そのため活動が地域住民の方の目に入りやすくなり、河川に関する様々なイベントも行われるようになり、目標よりも多くの団体の加入となりました。
-------------	-------------------------------------	---

**【事業の再検証】**

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。		4	河川愛護団体数は増加しており、その活動はまち美化へとつながっているため、効果は高いと考えます。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	河川愛護団体の行う清掃や除草を他の方法で行うと、業者への委託となり、コストが高くなります。また、地域の住民のようなきめ細かな対応は困難です。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	河川愛護団体を廃止すると、地域として川の清掃などが行われなくなります。そのため清掃等の業者への委託が必要となりコストがかかるため、市の負担が増えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	管理者は市であり、適正な維持管理を行う義務があるため、適切です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業により、川への愛着がわき、活動が活発になっています。今後も目標にむけ、地域のまちづくりの一部として河川愛護団体に補助金を交付することが適切と考えます。	